



国指定天然記念物である清田の大クスは中部地方随一のクスの巨木として知られ、推定樹齢は1000年とされています。地域の宝である大クスは、保全ボランティアの活動などにより守られています。

### 保全ボランティアに登録しませんか ☎ 0062673

- とき** 年2～3回（登録者に事前連絡）  
※徒歩や自転車での参加にご協力ください
- ところ** 清田の大クス
- 内容** 草刈り、折れた枝の除去、土の掘り起こしなど
- 対象** どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
- 申し込み** 直接、電話、メールで、住所・氏名・年齢・電話番号を博物館（✉ [museum@city.gamagori.lg.jp](mailto:museum@city.gamagori.lg.jp)）へ。

博物館では、清田の大クスを永く守り伝えていくため「保存活用計画」の策定に向けて、準備をすすめています。



館長の  
インタビュー

小林 龍二

昨年繁殖に成功し5匹の赤ちゃんが走り回るカピバラエリアはそのぶん排泄物が多く、担当の飼育員たちは毎日何度も掃除に追われています。アシカもカワウソも動物なので必然的に糞をするので掃除は飼育員たちの大きな仕事の一つです。彼らを見ているとしたいときに勝手にするの、アシカなどはやる気がないときはショーの最中に豪快に噴出して（糞だけに）、飼育員は憤慨して（糞だけに）、その後も奮闘する（糞だけに）も、最終的にお客さんから失笑をいただく時があります。食事中に読んでいる方、すみません。



良く食べ良く出しますが、拭かなくても良いのです。

い紙は使えない。そのかわり水中生活水中排泄なので自分のいる環境を自分で汚してしまい、狭い水槽ではこれが命取りになるため飼育者は水換えが必須となります。

その動物として必須の行動後にヒトのみが拭かなければならないことを不思議だと思った人は多いようで、それについての考察の本は調べると無数にあります。どうも二足歩行と食体系が影響しているようです。ヒトのほが魚や他の動物より頭がよくてすごいと思いがちですが、拭かなければならぬし、ヒトは時に仕事などで他人の尻ぬぐいなどもしなければならぬオロカな奴らだ、と動物たちは思っているのです。